

日本看護科学学会、日本看護系学会協議会共同企画シンポジウム
“看護学から学術の危機と発展を考える”



看護学のオープンサイエンス化の促進と 研究者と非研究者のパートナーシップから作り出す看護学

2023年12月10日

理事長 吉沢 豊予子

公益社団法人日本看護科学学会

Japan Academy of Nursing Science

日本看護科学学会COI 開示

吉沢 豊予子

公益社団法人日本看護科学学会
Japan Academy of Nursing Science

本発表に関し、開示すべきCOI関係はありません

本日の内容

- JANSは、学術（看護科学）の発展に寄与してきたか？
- 看護科学のオープンサイエンス化は学術の発展に寄与するのか？
- 看護科学の発展に一般市民をどう巻き込むのか？看護学の発展にシチズンサイエンスは馴染むのか？

	JANSの歴史
1975年10月	看護系6大学からなる「日本看護系大学協議会JANPU」の発足
1979年6月	JANPU第1回総会にて看護学会の設立準備について討議
1981年7月	日本看護科学学会(JANS)設立
1981年12月	第1回日本看護科学学会を国立公衆衛生院(東京)にて開催
1981年12月	日本看護学学会誌第1巻を発刊(第1回日本看護科学学会講演集)
1982年	文部科学省科学研究費対策委員会を発足させ、日本学術会議への登録申請および科研費分科・細目新設の申請を行う。
1985年	研究活動委員会発足
1986年	看護学用語検討委員会発足
1987年	日本学術会議に登録される
1988年	国際活動推進委員会発足

JANSの歴史	
1996年	災害看護研究特別委員会の設置(～3年間)
1998年	将来構想特別委員会の設置(～2年間)
1991年	看護倫理検討委員会の発足
1992年	第1回国際看護学術集会を東京で開催 3年毎第5回まで
2000年	法人化推進委員会発足
2001年	日本看護系大学連絡協議会(現:日本看護系学会協議会)入会
2002年	学会事務所を設置, 表彰論文専攻委員会, 社会貢献委員会発足
2004年	わが国初の英文雑誌となるJJNSの創刊
2007年	有限責任中間法人日本看護科学学会 設立
2009年	一般社団法人日本看護科学学会と名称変更
2010年	公益社団法人日本看護科学学会と名称変更

JANS 入会のご案内

本会は、看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献することを目的としております。

● 入会のご案内

お知らせ

2023年10月会員数10341人

ちなみに1991年入会会員番号1002番

学術団体の中で1万人の会員がいる意味と科学研究費の枠の拡大(分科,細目)

責任を考える必要がある。

第24回JANS学術集会(東京)設立25周年理事会企画

・看護学の独立した学術領域の発展

・日本の学術体系を担う組織である学術会議への参加

・学術発展のための委員会(学術対策学会誌編集,学術用語の整理),法人化、評議員制

・学術発展のための委員会(学術対策学会誌編集,学術用語の整理),法人化、評議員制

・学術発展のための委員会(学術対策学会誌編集,学術用語の整理),法人化、評議員制

・会員が関心のある研究テーマ:看護ケアの評価新しい看護ケアの開発・実践

・法人化すること:学会が人格を持ち、社会人として行動する基盤を持つ学術団体としての活動,提言や声明など看護の学術団体として見解を述べる道が公式に開かれる

日本学術会議初会員選出(2005年)

日本看護科学学会が果たしてきた役割と今後の課題

日本看護科学学会の将来に向けて

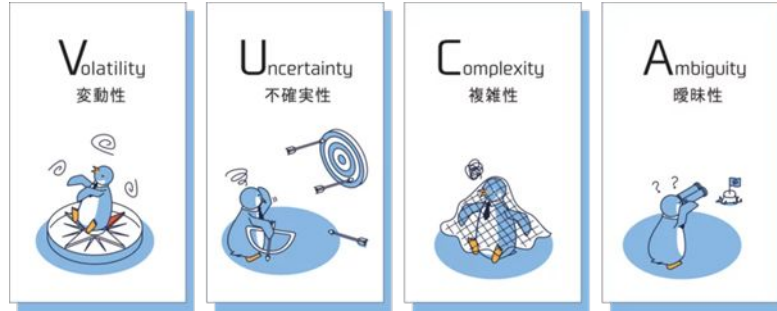
:座長:片田範子(兵庫県立大学)近藤潤子(天使大学)

日本看護科学会誌 J. Jpn. Acad. Nurs. Sci., Vol. 25, No. 2, pp. 132-140, 2005

“看護学から学術の危機と発展を考える”

- ◆ JANSは、学術(看護科学)の発展に寄与してきたか？
- ✓ 看護科学を学術の世界に押し上げるための活動であった。
学術領域において、独立した学問領域となるために、学会は基準を一つ、一つをクリアし、それを行いながら看護の他学会のモデル学会として、全体を牽引してきた。 1400-05-010901
しかし、それは、看護学の困り込み、看護は看護のみで、困り込むことによつて閉鎖的になっていたのではないか？
- ◆ 学術の危機の要因：
一般にそれぞれの学問領域のテリトリーを犯されないようにと無意識に考える学者集団になっていた・・・
開放性 透明性 包摂性 と少し離れていた。

時代のキーワード



VUCAの時代で大騒ぎ！

- ・変動性とは、価値観や社会構造の変化、テクノロジーの進化などによって、予測できないほどの大きな変化が起き得ること
 - ・不確実性とは、将来の見通しを立てることが難しい状況（予測困難な出来事の多発）
 - ・複雑性とは、経済活動を中心としたグローバル化によって、地球規模で起こる課題が顕在化・複雑化していること
 - ・曖昧性とは、これまでの常識が通じない状態で、問題に対する絶対的な答えがなく、解釈の可能性が複数あること
- 求められるもの**：対応力,知識・情報の吸収力、自律的柔軟な思考力

R5年科学技術・イノベーション白書表紙



地域の大規模な科学技術・イノベーション拠点
オープンイノベーションとは、大学や研究機関に閉じることなく、アンダーワンルーフの下、企業や公共団体などのステークホルダーとも連携しつつ研究開発を進めることは、オープンイノベーションを実現

第6期科学技術・イノベーション基本計画(概要)

- コロナ禍が国内外の情勢変化（米中対立、気候変動等の脅威、GAFA台頭の弊害等）を加速
- 基本計画では、①イノベーション力の強化、②研究力の強化、③教育・人材育成の3本を柱とする
- 5年間で、政府の研究開発投資の総額 約30兆円、官民の研究開発投資の総額 約120兆円 を目指す

科学技術・イノベーション政策の3本柱



<https://www8.cao.go.jp/cstp/stmain.html>

第2章 Society 5.0の実現に向けた科学技術・イノベーション政策

第1節国民の安全と安心を確保する持続可能で強靱な社会への変革

- 1サイバー空間とフィジカル空間の融合による新たな価値の創出
- 2地球規模課題の克服に向けた社会変革と非連続なイノベーションの推進
- 3レジリエントで安全・安心な社会の構築
- 4価値共創型の新たな産業を創出する基盤となるイノベーション・エコシステムの形成
- 5次世代に引き継ぐ基盤となる都市と地域づくり(スマートシティの展開)
- 6様々な社会課題を解決するための研究開発・社会実装の推進と総合知の活用

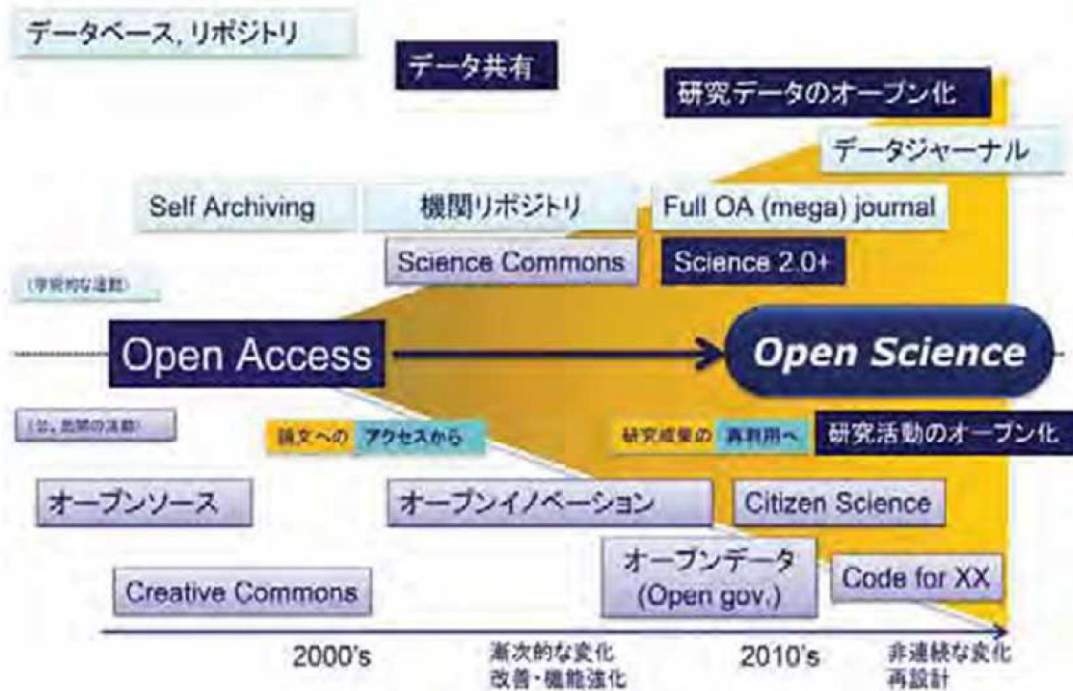
第2節知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力強化

- 1多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築
- 2新たな研究システムの構築(オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進)
- 3大学改革の促進と戦略的経営に向けた機能拡張

第3節一人ひとりの多様な幸せ(well-being)と課題への挑戦を実現する

教育・人材育成

◆ 看護科学のオープンサイエンス化は学術の発展に寄与するのか？



内閣府の報告書から

「オープンサイエンスとは、公的研究資金を用いた研究成果(論文, 生成された研究データ等)について, 科学界はもとより産業界及び社会一般から広く容易なアクセス・利用を可能にし, 知の創出に新たな道を開くとともに, 効果的に科学技術研究を推進することでイノベーションの創出につなげることを目指した新たなサイエンスの進め方を意味する」2014年内閣府

教義のオープンサイエンスは、オープンアクセスとオープンデータの総体をさす。より広く、電子化された情報を使いインターネットを駆使して行う新しいけんきゅうの進め方を表す。さらにシチズン・サイエンスまでも含む新しい科学の方法論や概念としての議論も盛んである

提言 学術情報流通の大変革時代に向けた学術情報環境の再構築と国際競争力強化(2022.9.28第二加工医学系学協会活動と学術情報に関する分科会)

◆ オープンサイエンスに関する勧告(2021年11月第41回ユネスコ総会)

オープンサイエンスは、学問の自由、**研究の健全性**及び科学の卓越性に関する本質的な原則を基礎として、科学のコンテンツ、科学的ツール及び科学的プロセスの**開放性**の向上から生ずる**再生産性、透明性、並びに共有及び協力の実践**を科学的事業に統合する新たな模範を確立する。

この勧告の適用上、

* 包摂的な構成物

* 多言語の科学の知識を全ての人々が自由に利用し、アクセスし、及び再利用することができる

* 科学及び社会の利益のための科学の協力及び情報の共有を拡大し、並びに伝統的な科学コミュニティを越えた社会的関係者に対して科学的知識の創出、評価及びコミュニケーションに関する過程を開放することを目的とするもの

* 全ての科学の学問分野及び学術の実践の側面(基礎科学及び応用科学、自然科学及び社会科学並びに人文科学を含む。)

* 主要な柱(オープンサイエンス知識、オープンサイエンスの基盤、科学的コミュニケーション、社会的関係者の開かれた関与及びその他の知識の体系との開かれた対話)を基礎とす

G7科学技術大臣の共同声明(2023.5.20)

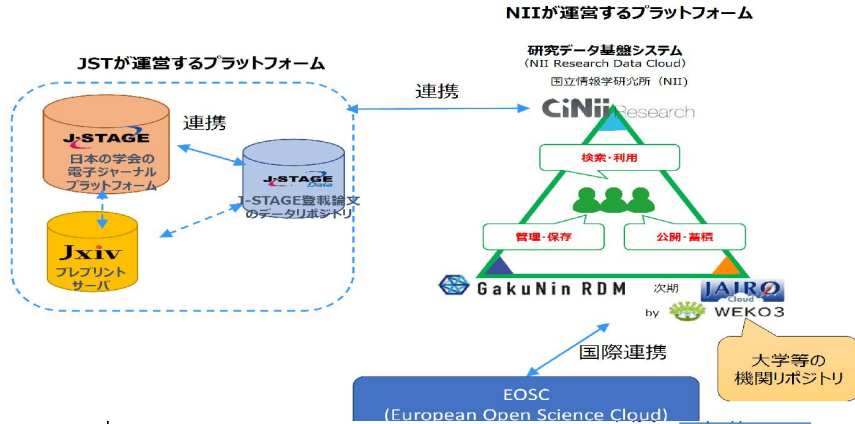
＜科学技術＞

- G7は、FAIR原則(Findable(見つけられる)、Accessible(アクセスできる)、Interoperable(相互運用できる)、Reusable(再利用できる))に沿って、科学的知識並びに研究データ及び学術出版物を含む公的資金による研究成果の公平な普及による、オープン・サイエンスを推進する。これは、研究者や人々が恩恵を受けるとともに、グローバルな課題に対する知識、イノベーション及び解決策を創造することへの貢献を可能にする。

(中略)

- 我々は、研究セキュリティ及び研究インテグリティ並びにオープン・サイエンスの理念に基づく国際的な共同研究の分野を含め、多国間対話を通じて、研究及びイノベーションにおける価値観と原則の共通理解の推進並びに促進にコミットする。

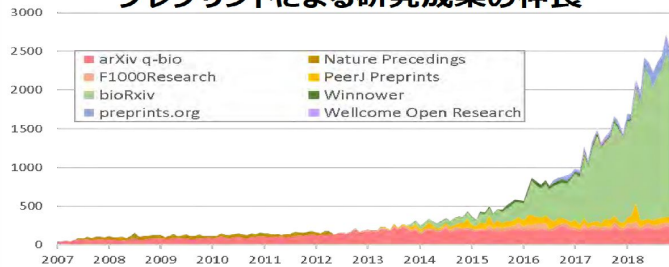
◆ オープンサイエンスの推進のための手段としてのオープンアクセス



【オープンアクセスのメリット】

- 知識の共有と普及の促進:** オープンアクセスは、研究成果や学術情報が無料でアクセス可能になり、一般市民や学生、研究者など、多くの人々が研究成果にアクセスし、自分たちの研究や学習に利用することができる。また、政策決定者や医療関係者など、重要な情報にアクセスし、意思決定に役立てることができる。
- 医療や公衆衛生の向上:** オープンアクセスは、特に医学や公衆衛生の分野で、新たな治療法や予防策、病気の診断方法などの情報をより広範な人々に提供することができる。これにより、より良い医療や公衆衛生の提供が可能となり、国民の健康状態が向上することが期待される。
- 社会的経済的影響:** オープンアクセスによって、研究成果がより広範な人々にアクセス可能になり、新たなイノベーションやビジネスチャンスを生み出すことが期待される。また、新たな発見や知識が共有されることにより、社会的問題や課題に対する解決策を提供することが期待される。

プレプリントによる研究成果の伸長



出典：林和弘(2020)「MedRxiv, ChemRxivにみるプレプリントファーストへの変化の兆しとオープンサイエンス時代の研究論文」, NISTEP STI Horizon, Vol.6, No.1を基に一部加工 (原出典：
http://www.prepubmed.org/monthly_stats/)

-----出典：文部科学省科学技術・学術政策研究所 林和弘データ解析政策研究室長-----

- ◆ 看護のオープンサイエンス化のために 看護科学学会がこれから行うこと
 - ・和雑誌の多言語同時出版による国際的認知度の向上
 - ・オープンデータ/オープンサイエンス時代のデータ管理……FAIR原則による和雑誌、英雑誌でのオープンデータの可能性
 - ・プレプリントの和雑誌、英雑誌の可能性
 - ・会員の開放性 多様な背景を持った研究者の参加
 - ・AI技術を活用した編集・出版支援のシステム
 - ・看護の学術用語の収集と体系化の促進

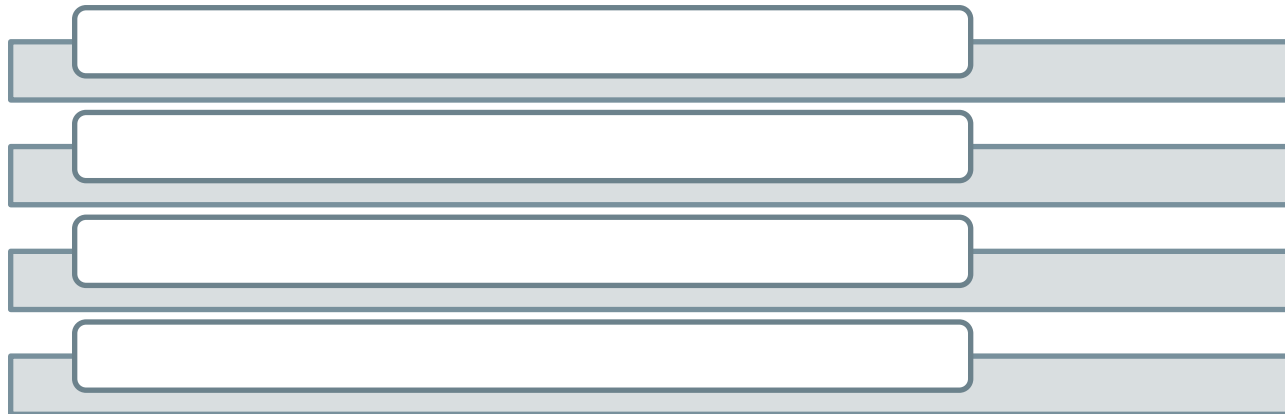
- ◆ 看護科学の発展に一般市民をどう巻き込むのか？看護学の発展にシチズンサイエンスは馴染むのか？
- ◆ シチズンサイエンスは、職業科学者ではない一般市民によって行われる科学的活動を指す。
オープンサイエンスの主要な一角を占めるともいわれている。
- ◆ これまで、シチズンサイエンスとしてどんなことが行われてきたか？
 - * 貢献的シチズンサイエンス: 科学研究等のための専門家が主導するプロジェクト
 - * 民主的シチズンサイエンス: 社会課題の解決に向けて市民が主体的に進めるプロジェクト

プロジェクト形態別シチズンサイエンス

形態	内容
データ収集型	コーネル大学鳥類学研究所「eBIRD」超に関するデータを写真、種名を送る
データ処理型	市民に対してデータの種類を呼び掛ける
カリキュラムベース型	若い世代にシチズンサイエンス参加を促すもの
コミュニティベース型	特定の地域やコミュニティで行われ、健康、環境、保全の内容を扱う、その成果が地域行政機関の意思決定に影響をあたえる

科学と社会の距離を近づける方法として有用オープンサイエンスをオープンコラボレーションの一要素として位置づけることができる

- ◆ 看護科学の発展に一般市民をどう巻き込むのか？看護学の発展にシチズンサイエンスは馴染むのか？



Four horizontal bars with rounded ends, intended for handwritten notes or answers.

看護学研究におけるシチズンサイエンス
例を考えてみよう：住民健康調査



公益社団法人

日本看護科学学会

Japan Academy of Nursing Science

ご清聴ありがとうございました